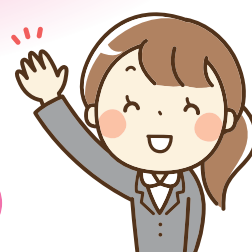


一般質問

町政の 今を問う!



3議員が8項目の質問を行いました。



ページ	質問者	質 問 事 項
11	山本 喜平 議員	1. 船津太陽光発電の防災対策は講じられたのか 2. 工事基準額の入札前公表こそ、入札制度の改革では 3. 自衛隊の防災訓練に小学生を見学動員したことについて
12	堀 辰雄 議員	1. 南陵高校に更なる支援を 2. ふるさと納税の今後の見込みは
13	原 孝文 議員	1. 再エネの推進と地域社会の共存のために 2. 通学バス乗降所へ雨風よけ設置を 3. 佐井大芝遺跡と出土物の保存は



1

船津太陽光発電の防災対策は 講じられたのか

主要防災工事が完成するまでは、**最小限の工事**
にとどめることを求めている



山本 喜平 議員

問 12月議会で議決した意見書への対応と対策を問う。

①開発業者に対し、土砂災害等の防災対策を早急に講じるよう指導と監督等する対応を取るよう求めた。

調整池・沈砂池等の施工は進んでいるのか。

②事業計画では、発電開始が令和7年4月からとなっていた。工事完了の予定、事業計画の変更が県に提出されたのか。

③環境影響評価の対象とならなくても、大型開発

事業に対し、町として何らかの条件を課す条例等が必要ではないか。

答 ①指導内容としては、調整池、沈砂池、暗

渠工などの主要防災施設工事に速やかに着手し、完成させること。また、これら主要防災工事が完成するまでは、伐採木の搬出に必要な最小限の工事にとどめることを求めた。

②事業の完成予定は当初計画より遅延し、令和9年3月となる。変更を手段中と確認している。

③新たな条例制定については、現行の法令や県の条例の枠組

みの中で、一定の環境保全や防災対策が担保されていると考えている。現時点では本町独自の基準を設けることは考えていない。



船津地内現場

2

工事基準額の 入札前公表こそ、 入札制度の改革では

過度な価格競争が生じるおそれがある

③再発防止をめざすのであれば、工事基準額の入札前公表の実行が、その第一歩ではないか。

答 ①官製談合再発防止検討委員会における最終の会議が2月末に行われ、3月11日答申予定となっている。議会に答申内容や委員会での経緯を含め説明する。その後、速やかにホームページ上での公表も予定している。

②1月より、条件付一般競争入札制度への移行を実施し、6件の入札を行った。制度の導入により、資格を有しながらもこれまで入札に参加できなかった業者が参加できるようになった。公平性・競争性の向上や入札参加機会の確保が一定程度図られたと考えている。

③国の指針では、基準額は原則非公表とされており、公表することで入札価格が基準額に固定化さ

問 ①官製談合再発防止検討委員会の答申は、未だ公表されていないが、いつ出されるのか。
②1月から条件付一般競争入札制へ移行することであったが、実施したのか。その評価はどうか。

れ、過度な価格競争が生じるおそれがある。一方で、基準額の公表が職員の負担軽減や透明性の向

上につながるなどの指摘については、十分認識している。答申を熟読して最終的な判断を行いたい。

3 自衛隊の防災訓練に小学生を見学動員したことについて

各小学校が特別活動での取り組みとして見学した

問 1月15日、南陵高校で実施した、陸上自衛隊による防災訓練を川辺西、江川、三百瀬の各小学校の児童が見学したようだが、経緯と考え方を問う。

①訓練の見学は、自衛隊から要請があつて児童を見学に動員したのか。
②各学校から全学年の児童が、見学したのか。
③児童に見学させた目的とその教科は何か。

答 ④自衛隊による学校への働きかけは、自衛隊を就職の選択肢として、意識させる取り組みと認識して、防災訓練を見学させたのか。

①自衛隊からの要請はない。昨年末に南陵高校から災害救助訓練実施について声をかけてもらった。防災教育の一環として貴重な学びになると判断し、校長会で伝え

た。近隣の3小学校が見学に参加したものだ。
②見学に参加した3校のうち、2校が全校児童、1校が6年生のみ見学した。
③児童が自らの身を守る意識を高めるとともに、いざというときに安全な行動を取ることができるところを目的に、各校特別活動での取り組みとした。
④自衛隊による学校への働きかけは一切ない。今回は防災教育の一環として取り組んだ学習活動なので、キャリア教育に関わるものではない。



1 南陵高校にさらなる支援を大いに応援していきたい



堀 辰雄 議員

問 既に同校に対しては、土地の無償貸与という大きな支援を行っているが、同校からはそれ以上の恩恵を受けている。町のイメージアップのためにも応援すべきではないか。



南陵高校入学式

答 現在の理事長は、健全な学校運営に取り組んでおり、様々なメディアにも取り上げられ、学校の取り組みを発信している。

町としても南陵高校の再建を大いに応援したく、今後、どのような形で応援が可能か職員共々考えていきたい。

2 ふるさと納税 今後の見込みは

通年提供できる返礼品を開発
する事で寄付額の増額が見込
めると考える

問 ふるさと納税額3
千万円、5千万円、8千
万円、そして今回は1億
円以上と大きく伸びてき
ているが、それでも他の
市町と比べると少ない。
今後の税収アップに繋
げるための具体的な取り
組みについて問う。

答 寄付実績では、返
礼品の90パーセント以上
柑橘類で占めている。
今後の取り組みとして
は、1年を通じて安定し
た供給のできる返礼品の
開発や、地域産品を活用
した特産品開発に実績の
ある、ふるさと納税運営
代行事業者と協力し、日
高川町産の牛肉やチョコ



ふるさと納税

1 再エネの推進と地域 社会の共存のために

地域に迷惑のかかる形は望んでいない



原 孝文 議員

問 2022年に日本
弁護士連合会が、再エネ
の推進についての意見書
を出している。内容は、
現在の日本の再エネ開発

の推進方法では開発が進
まず、かえって逆行する
結果となり、改善が必要
というものだ。

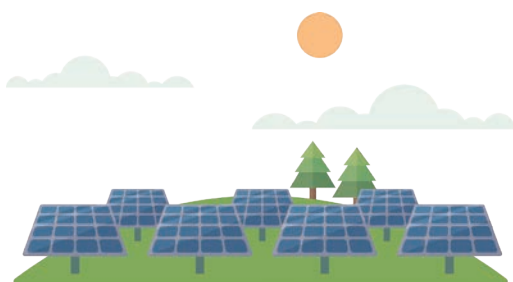
乱開発を抑制し、自然
保護、災害防止、地域住
民の生活の保全がなされ
てこそ、再エネ発電施設
の建設が進む。この両立
が大切であり、そのため
の法改正、自治体としての
取り組みが必要である。

全国的に風力や太陽光
発電の建設をめぐり、住
民との紛争や生活環境の
破壊が多発している。開
発業者はあくまでも利益
第一であり、不誠実な業
者の地域住民への説明は
全く不十分だ。合意形成
も地域にどの程度のお金
が入るかが判断基準と
なっているのではない
か。

町は傍観者的な姿勢を
改め、明確な考え方の構
築、規制などの対応をし
ていくべきだ。

答 再エネ開発が地域
に迷惑のかかる形は望ん
でいない。ただ、環境ア
セスメント基準やガイド
ラインに沿った事業計画
であれば、影響を回避も
しくは低減できるものと
思っている。

町としては、住民が困
るという開発に関して、
それを推進するつもりは
ない。



2

通学バス乗降所へ
雨風よけ設置を全町的に検討し、作業を
始めたい

問 子ども達のための学校統合を目指し、学校再編推進委員会では協議を重ね、学校現場は勿論のこと、より快適、便利に学べる環境整備を進めてきた。

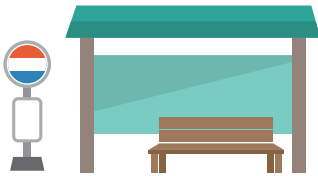
その中で、登下校については、校舎所在地以外に住む児童・生徒はバス通学となることから、推進委員会では、バス乗降所への照明、雨風を防げる施設、防犯カメラ等の設置を町へ要望することを決めた。

既にバス通学を実施している地域を含め、全ての必要と思われる箇所への設置要望である。時間的な余裕はないが、早急に検討、予算化して整備を望む。

答 バス乗降所は約40箇所あり、既に施設がある箇所もあるが、未整備が多方面である。

設置のためには、一定の広さが必要で、土地の協議など様々な課題もあり、地域住民の皆さんの協力も不可欠だ。

全町的に検討し、事務作業を行い、必要な整備、優先順等を精査した上でまとめ、推進委員会として正式に要望していく。



3

佐井の大芝遺跡と
出土物の保存は一部だけでも保存・展示して
いきたい

問 圃場整備のため、発掘が進められていた大芝遺跡は、約4千4百年前の縄文後期の住居跡と中世の建物や墓地在混在する珍しい遺跡である。発掘面積は、1万1千㎡と、県内一は勿論、近畿地方でも最大級とされている。

縄文時代の竪穴式住居



大芝遺跡

跡が20ヶ所程確認されており、土器片や矢じり、漁具などコンテナ110ケース分が出土している。広く中部や関東地方との交流があったこともうかがえる。

中世のものでは、墓穴より鉄製の短刀やえぼしと思われる布切れも出土している。

答 調査事例が少なかった日高川中流域の古代からの生活内容を知る重要な手がかりになるもので、本町の歴史を学ぶ上で生きた教材として積極的に活用していきたいと考えている。

県教委の整理後において、出土物の一部だけでも提供いただき、保管や展示などしていきたい。

らかの保存を考えるべきでないか。